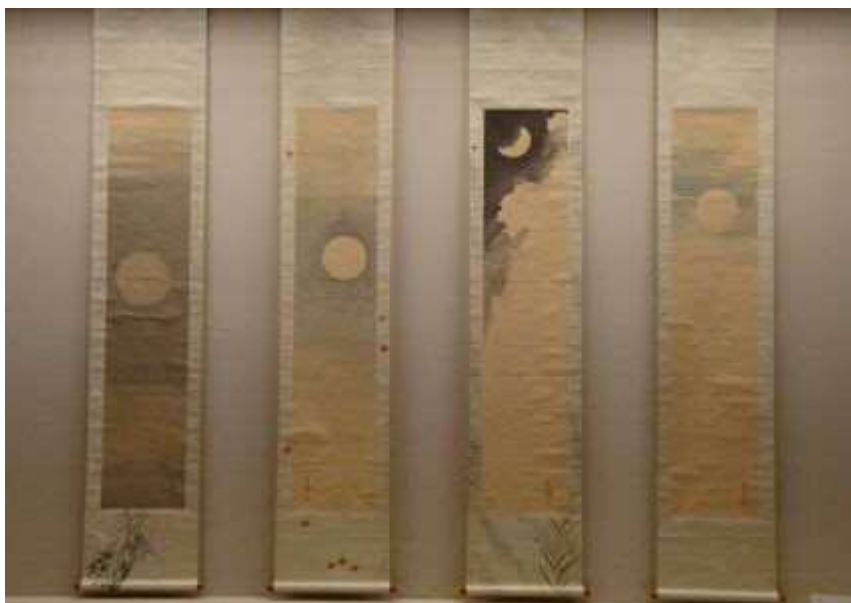


## 応挙《藤花図屏風》が登場！

2013年04月02日

3月24日に国宝《雪松図屏風》の展示期間が終了し、いくつかの作品が入れ替わりました。新しく展示された作品のうち、春夏秋冬の月を四副の掛軸に描き分けた《四季の月図》には、お客様から「これには参ったね！」と感嘆の声が聞かれました。このほかにも《四季草花図屏風》（袋中菴挿華 山階御流蔵）や、応挙と明治時代の山元春挙による滝の絵競演などが加わりました。

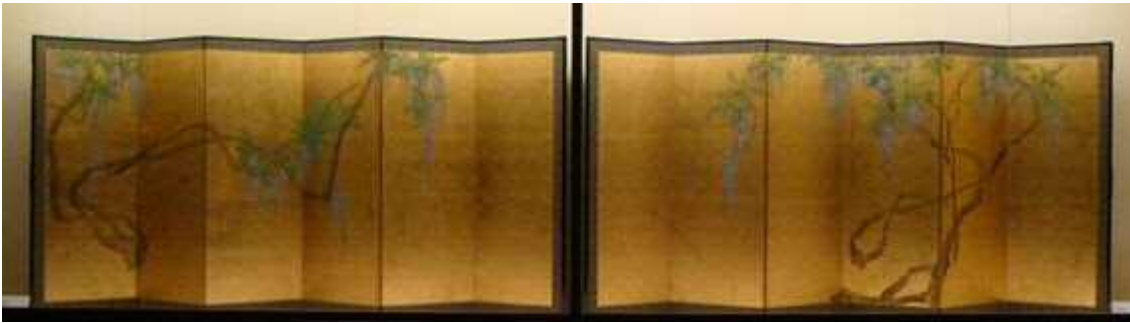


《四季の月図》白鶴美術館蔵



右が応挙《青楓瀑布図》（サントリー美術館蔵）、左が山元春挙《瀑布図》（滋賀県立近代美術館蔵）

そして本日から、《雪松図屏風》があったケースに重要文化財《藤花図屏風》（根津美術館蔵）が入りました。応挙の代表作の一つとされるこの屏風は、1995年に没後200年記念として京都国立博物館で開催された展覧会や、2003年に大阪市立美術館・江戸東京博物館・福島県立美術館で開催された応挙展にも出品されなかったほど大切に扱われている作品で、今回特別に2週間展示のおゆるしをいただきました。



金地に「付立て」（つけたて）と呼ばれる技法で一気に呵成に描かれた太い墨線が、精緻に描かれた花房と組み合わせられることで藤の幹や枝となって大きな空間をはらんでいます。

藤の花は青と紫、白を重ね合わせて複雑な色あいが表現され、油絵のように絵具が盛り上がっているかのようなボリュームが感じられます。この機会にぜひ実物をご覧ください。



なおこの《藤花図屏風》展示にあわせて、藤色（紫色）の衣類や小物などを身につけた方へ、当日観覧料金から100円の割引をしています。

(TM)